

すくすくルーム防災月間

大船渡

乳幼児の
親に啓発

こそだてシップが17日まで

大船渡市のNPO法人こそだてシップ（伊藤怜子理事長）の「すくすくルーム防災月間」は2日、16日間の日程でスタートした。

17日（土）までの期間中、同NPO法人が盛岡のショッピングセンター「サン・リア」で

運営する子育て支援センター「すくすくルーム」で、乳幼児の親などを対象に啓発活動を行っている。

防災月間は、同NPO法人が独自に設定したものの、東日本大震災のときに子どもが生まれていなかっただけで、大震災から得た教訓の風化を防ぎ、日常的に防災意識を持つてもらおうと企画された。

すくすくルームの一面に、非常食のほか、懐中電灯や電池、非常用口腔（こうこう）ケアのガムなどの多種多様な防災グッズが展示。また、ほ乳瓶がない場合の授乳方法や、「へこ帯」を使っておんぶや抱っこする方法などを掲示された。

同NPO法人の村上トメ子さん（71）は「子どもにも不安を与えないように、お母さんが日ごろから防災意識

を強く持つてほしい。防災グッズは用意しておくだけで安心感があるが、いざという時のための心構えが一番大切。来所して大震災を経験した人たちの話を耳を傾けてほしい」と呼びかけている。

すくすくルームの利用時間は午前10時～午

一面に防災グッズなどが展示されている「すくすくルーム」サン・リア

